



—学校・保護者・地域とともに子どもたちの未来を創造する—

教育委員会だより

「住むんだったら」「学んだったら」「教えるんだったら」つがる市がいい！

第 12 号

令和7年2月

つがる市教育委員会



今、自分が成すべきことは何か

つがる市教育委員会 教育長 山谷 光 寛

令和6年度も瞬く間に過ぎて、残すところ約1か月となりました。今年の冬は湿った重い雪が降り続き、特に年末年始は雪片づけに追われ、雪片づけを趣味にしている私も少々疲れしました。

さて、今月11日(火)は、つがる市市制施行20周年となる記念すべき1日でしたが、市制施行からの20年は、あっという間であったと感じています。

つがる市民の一員として、本市は、この間、誰もが暮らしやすい街、子どもたちに充実した教育環境を提供する街等として、周辺の市町をリードしてきたものと感じています。

この20年間、学校現場ではその環境が大きく変化しました。子どもたちの数の減少が一番大きな変化ですが、子どもたちに充実した教育を提供する目的で数々の教育改革が行われてきました。

昨今も、部活動の地域移行、教員の働き方改革等への取り組みを続けていることはご承知のとおりです。教育委員会では、今後も着実にこれらの改革に取り組み、より一層子どもたち、保護者、地域そして教職員にとって、望ましい学校づくりのために努めて参ります。

そのためには、保護者の皆さん、地域の皆さんの本市学校教育に対するご理解とお力添えが必要となりますので、今後ご支援をよろしくお願いいたします。

アメリカ合衆国第35代大統領である、ジョン・F・ケネディは1961年に行われた大統領就任式典の場で、「祖国があなたに何をしてくれるかを問うてはなりません。あなたが祖国のために何ができるかを問おうではありませんか。」という言葉述べましたが、この言葉は、目まぐるしく社会情勢が変化する現代を生きる私たち、また、大きな変革の時期を迎えている教育現場にとって、その道標となるものではないのかと感じています。

現代を生きる私たちには、個人の考えを活かしつつ、他者からの呼びかけや促しに応え、また自分とは異なる訴えや思いにも耳を傾けて、個人が所属する集団のために何ができるのかを考え、行動することが求められているように思われます。

結びに、今年度の本市学校教育活動に対する、ご理解・ご支援・ご協力に感謝申し上げます。

令和7年度も、つがる市教育委員会は、子どもたち、保護者、地域、教職員のために何ができるのかを考え、充実した教育環境を提供するために努力することをお約束いたします。

新年度も、「すべては子どもたちのために」を合言葉に、力を合わせて参りましょう。

今年度の取組の成果

教育総務課

教育総務課における今年度の主な取組みについて報告致します。

○学校施設の整備

- ・小学校遊具点検の結果を踏まえて、ブランコや鉄棒を修繕しました。
- ・天井や外壁などの非構造部材の耐震点検を実施しました。(実施校;森田小、柏小、森田中、柏中)

○教育施設の充実

- ・1人1台のタブレット端末を有効活用するため、大型モニター(液晶ディスプレイ台付)を全小学校の普通教室に設置(計32台)しました。(昨年度は中学校に設置済)
- ・GIGAスクール構想実現へ向けた、学習系ネットワーク強靱化に伴う光回線(最速1G)を未設置校に追加しました。

○安全安心で豊かな教育活動の推進

- ・スクールサポーター(支援員)30名、英語指導員1名を配置しました。
- ・県の交付金を活用し、小中学校の給食費無償化を10月から実施しています。

○学校における働き方改革の推進

- ・留守番電話を導入し、10月から運用しています。(応答時間は各校で設定)

○未来をつくる人材の育成

- ・中学生を対象としたホームステイ等による姉妹都市国際交流事業については、訪問先である米国メイン州バス市の受け入れ体制が整っていないことから断念せざるを得ない状況にあり、今後の見通しも不透明であることをお知らせいたします。

指導課

○実用英語技能検定受験料補助事業

生徒の英語力を高める取組として、今年度も実用英語技能検定受験料補助事業を行いました。今年度の各級の総受験者数は以下のとおりです。

- | | | | |
|-----------|-----|------------|-----|
| ◇ 5級 受験者数 | 19名 | ◇ 4級 受験者数 | 46名 |
| ◇ 3級 受験者数 | 61名 | ◇ 準2級 受験者数 | 25名 |
| ◇ 2級 受験者数 | 1名 | | |

つがる市型小中一貫教育の三本柱の一つである「グローバル科(外国語・国際理解)」の取組を通して、令和7年度までに中学校卒業段階で、英検3級レベルの生徒を70%以上にすることを目標にしております。来年度も多くの生徒がチャレンジすることを期待しております。

○教職員研修の実施

教職員の指導力と専門性向上のため各種研修会を実施しました。その一つの「幼保小連携研修会」では、今年度、参加者全員で育実幼稚園の保育参観をしました。参加した先生方から、「子供たちが夢中になって文字や数字を探している姿を見て、小学校ではその上に資質・能力を積み上げていかなくてはと思います。」「お互いの保育・授業を見せ合うことが連携の第一歩になります。まずはそういう機会を作りたいです。」など、前向きな感想が多数あり、とても実り多き研修会となりました。

来年度は、幼児教育の質的向上及び小学校教育との円滑な接続を目的に、各小学校と関係園において、「幼保小の架け橋プログラム」の作成に取り組む予定です。

社会教育スポーツ課

社会教育スポーツ課では今年度の施策の柱として、「伊藤鉱業アリーナ つがる(総合体育館)」を核とした新たなスポーツ環境づくりを掲げ各施策の実施に取り組みました。その中の主な取組・成果について報告します。

○総合体育館を核として、市民がスポーツに親しみスポーツに取り組む環境づくりの整備

①スポーツタウン活性化協議会(つがる市 STAC)による「フードパートナー」事業の実施

総合体育館で開催される各種大会やスポーツイベントにおいて、飲食提供や物販提供を行い、大会等に参加される利用者の利便性の向上や総合体育館の魅力を高め、地域経済、活力あるまちづくりの推進に一翼を担うことができました。

②総合体育館の利用促進

スポーツに親しむ環境づくりを目的に、各種イベントや大規模スポーツ大会を開催しました。

・第37回マルちゃん杯東北柔道大会:令和6年5月25日(土)～26日(日) 来場者約2,100人

・つがるスポーツフェスティバル:令和6年10月6日(日) 来場者数1,200人

○中学校部活動の地域移行に関する検討

①中学校部活動の競技ごとの作業部会を開催し、休日における地域移行に向け、各学校の課題を整理することができました。引き続き課題解消に向け検討してまいります。なお、野球の作業部会において、木造中学校を除く各中学校が、合同チームにより大会に出場しなければならないことから、令和7年度に野球クラブチームを設立し、休日における部活動の地域移行に取り組めます。

○学校開放事業について

①令和7年度から木造中学校、稲垣中学校の学校開放事業を実施します。

文化財課

世界文化遺産の亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋野貝塚には、4月から11月の間に約7,800名の方が訪れ、遺跡ボランティアガイドの案内などを通じて遺跡の価値や魅力を知っていただきました。以下に縄文遺跡に関する主な取組みについて報告します。

○遺跡でのイベント開催

両遺跡の活用のため、NPO法人つがる縄文の会や木造高等学校と連携して「JOMON 亀ヶ岡遺跡・田小屋野貝塚まつり2024」を9月に開催しました。今回も、民間団体のご協力によりクラフト・飲食ブースが設けられ、多くの参加者でにぎわいました。勾玉・ミニ石斧・貝輪づくりにも多くの小・中学生がチャレンジしました。

○夏休み体験講座の開催

小・中学生を対象とした夏休み体験講座(土器づくり・遺跡ガイド)を8月に開催しました。土器づくりの参加者は、陶芸家の指導を受けながら、思い思いの形に土器を仕上げました。遺跡ガイドの参加者は、学芸員とボランティアガイドの解説を受けた後に、自分の言葉で遺跡を説明しました。

○史跡整備の推進

文化財課では、亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋野貝塚の整備計画を具体化するための設計業務を現在進めています。このほか、令和3・4年度に発掘調査した両遺跡の発掘調査報告書の編集作業を進めており、令和7年3月に刊行の予定です。

学 校 自 慢

柏小学校

本校では、全校道徳を行っています。今年度は、40周年記念式典を開催する節目の年となりますので、縦割り班で本校の自慢やよいところ、残したい伝統について考え、これらをつないでいくために自分たちができることを話し合いました。また、ゲストティーチャーとして第1回卒業生を迎え、開校時の思い出を聞きました。

さて、子供たちが考えた本校の自慢は、「岩木山がよく見える教室やグラウンド」「元気なあいさつ」「みんなやさしく仲がよいこと」「おいしい給食(特にタレ付き唐揚げ)」等々たくさんありました。41年目を迎えた本校は、愛校心や愛郷心をもち、新たな歴史の1ページを刻み始めました。



稲垣小学校

学校の自慢は何と言っても、吉幾三さん作詞作曲の校歌でしょう。吉さんが作詞作曲した小学校の校歌は日本全国で本校のみです。春夏秋冬に合わせた歌詞で4番まである素敵な曲です。防災つがる広報のお昼にもサビの部分のメロディーが全市内に流れます。

また、昨年度本校は、第62回全日本学校歯科保健優良校奨励賞、一昨年度は青森県学校歯科保健優良校(中規模の部)第1位をいただきました。人生100年時代を生きる今の子どもたちにとって、健康リテラシー、特に歯の健康に関するリテラシーを身につけることは、「生きる力」の重要な要素と言えます。養護教諭を始め先生方、保護者、子ども、それぞれの意識の高まりがこの結果をもたらしたと言えます。



車力小学校

本校は、子どもを主語とした「楽しく学びのある学校」づくりに取り組んでいます。子どもたちは「元気に みんなで 自分から」(自律・協働)をキャッチフレーズに、いろいろなことにチャレンジしています。

ふるさとの文化を継承し、ふるさとを大切に思う気持ちを育むためにも、車力の歴史や文化、産業、自然等を題材に、子どもたちが探究する「ふるさと学習」にも力を入れています。今年度は、コロナ禍で実施していなかった「車力音頭」が運動会に復活し、保護者や地域の方も一緒に踊り、和やかな雰囲気となりました。今年の馬市祭りの馬パレードでも「車力音頭」を披露することができました。



教育委員会からのお知らせ

小・中学生の自転車用ヘルメット購入費の一部を助成します。
対象はつがる市に住所を有し、令和7年度において小学校4年生以上の児童生徒であること。
助成金額の上限は3,000円です。
詳細についてはつがる市HP(右のQRコード)を参照してください。

